

【 105 】

氏名	河 野 良 寛
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1801 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年 6 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	噴門部のリンパ流 — SPECT による検討を中心にして —
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋      教授 村上宅郎      教授 栗井通泰

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

噴門部癌の合理的リンパ節郭清を行うため経内視鏡的 RI-Lymphography を29症例に施行し、うち15例に SPECT を併用した。噴門部より腹腔方向へ向かうリンパ流は主として左胃動脈を経由し、一部後胃動脈や左下横隔膜動脈を経由して腹腔動脈周囲や大動脈周囲へ向かうのが認められた。SPECT による大動脈周囲リンパ節の描出率は66.6 %であり、特に左腎静脈上部の傍大動脈リンパ節の描出率は58.3 %であった。噴門部より縦隔内へ向かう上行性のリンパ流も SPECT にて同様に撮像した。

SPECT 画像および RI uptake の結果は実際の噴門部癌の転移率とほぼ同様の傾向を示した。また深達度が深まるにつれ転移は拡大する傾向にあり、噴門部早期癌で限局型のものは噴門側切除の適応と考えられるが、噴門部進行癌で深達度の深いものは全摘にくわえて大動脈周囲も含めた広範囲な郭清の必要性が示唆された。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は噴門部リンパ流に関する臨床的研究であるが、29症例を対象として経内視鏡的 RI-Lymphography および SPECT により検討した結果、噴門部より腹腔方向または縦隔内へ向かうリンパ流に関して重要な知見を得たものであり、噴門癌治療上よりも価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。